

マチュ・ピチュ



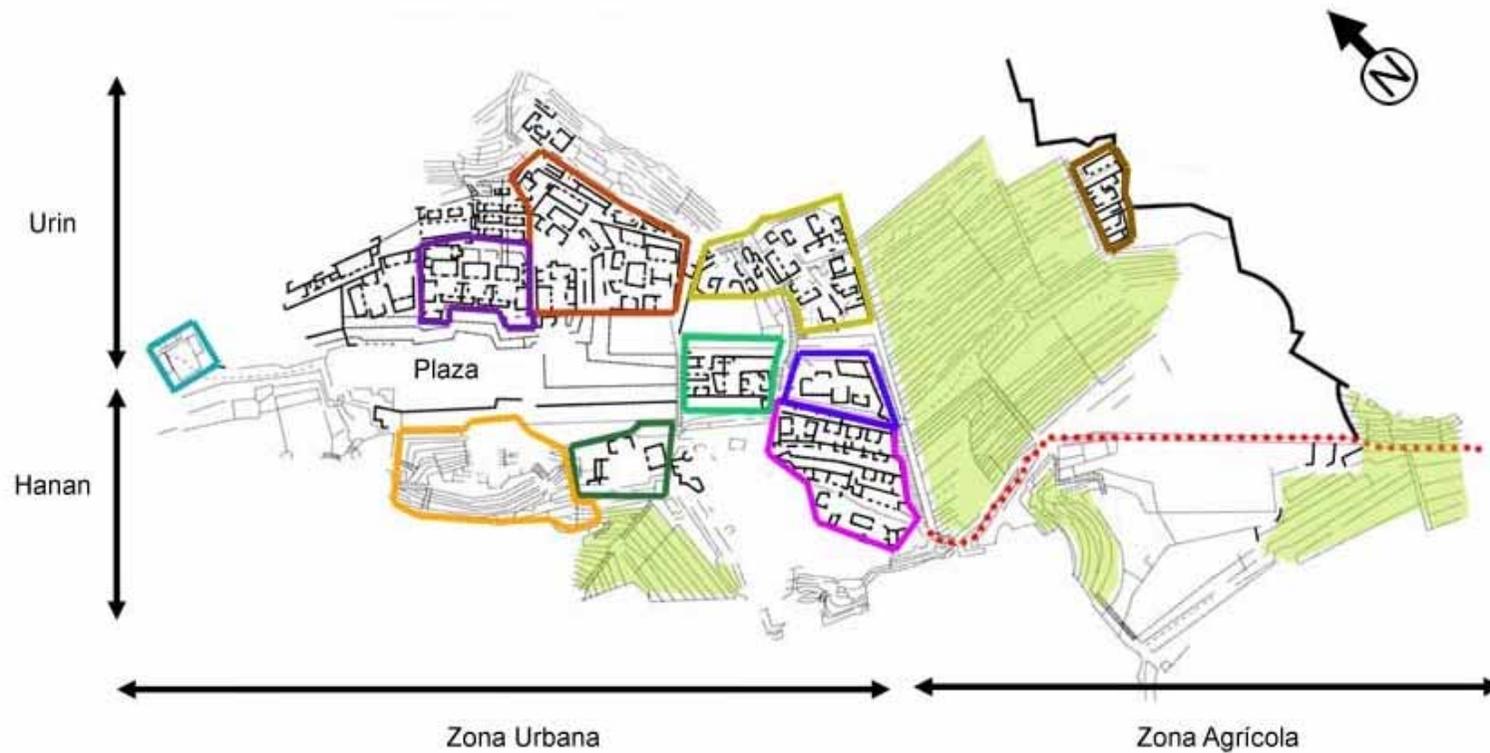
1911年、アメリカ YALE 大学の歴史家ハイラム ピンガムによって発見された。
今年発見からちょうど100周年を迎える

発見された頃には隠れ家や要塞などの説があったが高地であり、かつ両側が切り立った崖上になっているため、太陽観測に最も適し、かつ宗教的理念として、インカの神の太陽に近いところである、という点が場所選定の理由として挙げられている。

マチュピチュの都市部は530m x 200m近くあり石の建物数は172戸以上あったと言われている。

南側には段々畑や倉庫など農業用の私設が、そして北側には神殿、広場や家など町の中心部がある。





- 旧入場口 インカの道
- C1 入場門
- C2 太陽神殿
- C3 インカ皇帝の住い
- C4 中央広場
- 現入場口

- C5 インティワタナ
- C6 聖なる岩
- C18 コンドルの世帯
- C14 15 16 巫女の世帯
- C13 三門の世帯
- 段々畑など農業の私設

マチュピチュの中心部はほかのインカ文明の都市と同じようにハナン(上部)とウリン(下部)に分かれていろいろな施設がある。

ハナン(上部)

太陽神殿

太陽神のセレモニーなどが行われていたと思われる神殿。現在火事や接収の跡などが見つけられるためスペイン人に攻撃された時神殿内の飾り物やミイラなどがその時なくなっただと思われる。



インカ皇帝の住い

マチュピチュで見つけられる家の中で一番立派な作りであることから、この家には皇帝か他の偉い人物が住んでいたと思われる。



中央広場

神殿や司祭の家など信教に係わる建物で囲まれているためこの広場でいろいろな儀式などが行われたと思われる。

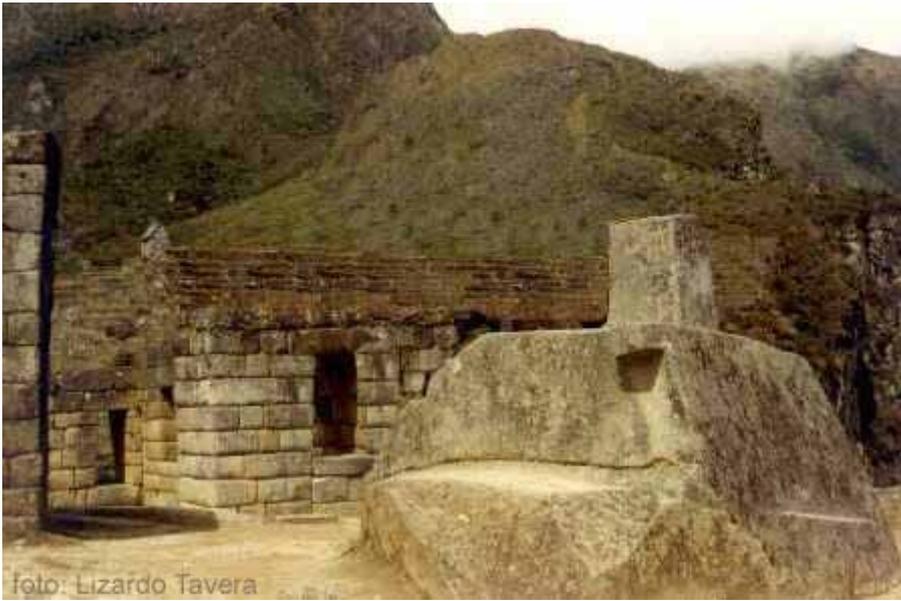


インティワタナ

中央広場付近のピラミッドの頂上にはインティワタナ(Intihuatana...太陽をつなぎ止める石)という日時計が設置されている。

夏至と冬至が正確に分かる窓があるなど、太陽を使った暦を観測、作成したとも言われている。





ウリン(下部)

聖なる岩

マチュピチュへの入口を示す巨大な岩



三門の世帯

三つの巨大な門分けられた世帯、中央広場につながっている。



コンドルの世帯

この世帯の真ん中に岩を削って作られたコンドルの絵があるところからこの名前をつけられた





巫女の世帯

下部で一番大きな世帯だが入口が一つしかない、そして女性の仕事用の機具などが見つかったことから Acllahuasi(巫女の家)だと思われる。

